

研究主題・副題 県内旧制中学校の社会的機能の分析を題材とした歴史学習  
 ~ 歴史的思考力を育むための授業づくり ~

石川県立小松高等学校 酒井 隆志

1. 主題・副題の設定理由

平成 15 年度より高等学校でも新学習指導要領が実施されることとなった。この学習指導要領の基本理念である「生きる力」、その知の側面を支える「確かな学力」、「自ら学び、自ら考える力」を育成するためには歴史学習において何を目標とすべきかと問いかけた結果、歴史的思考力を育むための授業作りが必要ではないかと考えた。また、学校史を歴史学習へ導入することが生徒の近現代史アレルギーを緩和する一助になるのではないかと考え、本主題・副題を設定した。

2. 研究の目的

「学校」の歴史を題材とする統計資料の読解演習を中心とした授業を実践し、生徒の歴史的思考力を育成するための授業としての可能性を探る。

3. 研究の方法と内容

(1) 旧制小松中学校の社会的機能の分析

中学校利用者の社会階層、出身社会階層と進路傾向との関連性、中学校卒業後の社会移動の分析から、小松中学校の地域的特性に由来する社会的機能を明らかにした。

(2) 歴史的思考力についての考察

歴史的思考力の発達段階と定義を段階ごとに必要とされる力（歴史的思考力を構成する力）との関係を図表1のように考えた。

図表1 歴史的思考力の発達段階と必要な力

	発達段階	必要とされる力
高次 ↑	歴史事象の理解を通じての時代構造把握	歴史的事象を総合して考える力
	歴史的因果関係の把握	歴史的事象を比較・関連づけて考える力
低次	歴史事象の変化の正確な理解	歴史的事象を分析して考える力

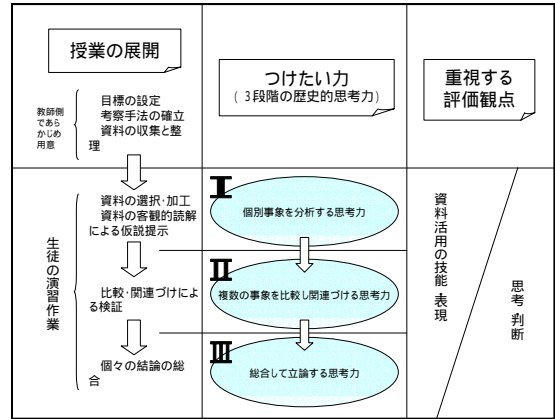
以上より、歴史的思考力を育成していくためには実践授業での考察展開の中で、「個別事象を分析する思考力」、「複数の事象を比較し関連づける思考力」、そしてそれらをもとに「総合して立論する思考力」を引き出す演習を生徒に行わせることが効果的と考えられる。

(3) 授業展開の構想

旧制小松中学校に関する研究の考察過程を7段階に整理し、歴史的思考力の発達段階に応じて必要とされる力、評価の四観点と照合させ、図表2のよう

な授業展開の構想図を考案した。

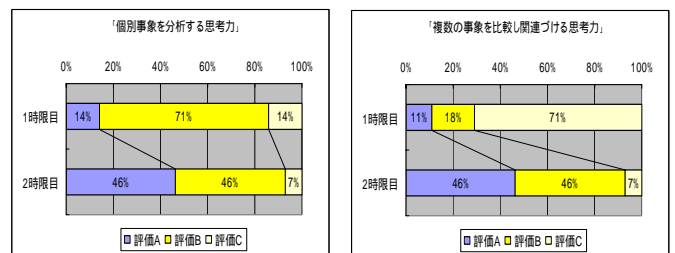
図表2 授業の全体構想



(4) 授業実践（第1次：1時間、第2次：2時間）

第1次は導入的な意味を込めて統計資料の歴史研究への活用について学んだ。歴史の息吹を伝える生の資料（旧制中学校時代の生徒学籍簿など）に接することによって生徒の歴史追及への関心・意欲は高まった。第2次は統計資料の活用・処理の演習を通して資料読解力を養い、その力を応用させて考察することを目標とした。ワークシートの記述内容を共通の評価指標で比較した結果、「個別事象を分析する思考力」、「複数の事象を比較し関連づける思考力」はかなり高まったことが確認できた（図表3）。

図表3 第2次の演習実施後の評価人数比変化



4. 結論

関心を持ちやすい素材（自校の歴史）を教材化し統計資料の分析・検討を中心とする演習作業を交えた授業は、生徒の歴史的思考力育成のために一定程度の効用性を発揮することが明らかとなった。

5. 今後の課題

今回行った評価方法の客観性・妥当性を吟味し、「総合して立論する思考力」育成のための授業構想を試みたい。そのためには生徒全体の教育史についての各種知識概念や認識の共通化を図る必要があり、資料読解のためのスキル学習の時間をある程度確保することも必要となる。